

## 少子化危機突破タスクフォース（第2期）情報提供チーム第2回

1. 日 時 平成25年12月3日（火）10:00～11:50

2. 場 所 中央合同庁舎4号館第2特別会議室

### 3. 出席者

（構成員）

安藏 伸治	明治大学政治経済学部教授、日本人口学会会長
井上 敬子	文藝春秋「CREA」局出版部統括次長
後藤 憲子	ベネッセ教育総合研究所 次世代研究室室長
齊藤 英和	国立成育医療研究センター母性医療診療部不妊診療科医長
宋 美玄	川崎医科大学産婦人科

（内閣官房）

吉村 泰典	内閣官房参与
-------	--------

### 4. 議事次第

（1）男性不妊症の現状と課題

・石川智基リプロダクションクリニック大阪CEOよりヒアリング

（2）助産師の立場から見た情報提供について

・高橋眞理北里大学看護学部教授よりヒアリング

（3）情報提供における課題

・宋美玄委員よりヒアリング

（4）意見交換

### 5. 議事概要

（1）男性不妊症の現状と課題

石川氏のプレゼンテーション

資料1に基づき、「男性不妊症の現状と課題」として、男女両側に対してのリプロダクティブヘルスライツに係る知識・情報の提供及び教育や出産年齢高齢化に伴う不妊治療の支援などについてのプレゼンテーションが行われた。

#### 石川氏のプレゼンテーションに関する質疑

- ・（齊藤座長）精子が少し悪いと体外受精等に入ってしまうが、男性側のケアをするだけで、タイミングとか人工授精で妊娠できる割合というのはどの程度になるか。
- ・（石川氏）精液所見が悪くても、男性側の受診をしないままに、精索静脈瘤の有無すらわからないままに顕微受精を行い、結果が出ずに、その後に男性不妊の外来に来て精索静脈瘤の手術をすることもある。昨年1年間の精索静脈瘤手術の120例ぐらいのうち10名程度がステップダウンによる妊娠に成功している。
- ・（齊藤座長）特定不妊治療で助成されているが、男性側も助成制度を適用すれば、効率的に不妊の治療のカバーができるのか。
- ・（石川氏）費用対効果ということに考えるとどうかとは思いますが、男性側の不妊治療に関しても助成制度をしていますよということが妻側へ与える効果は大きいと思う。不妊は女性のものだけではないのだと、男性も女性も理解できるようになる。
- ・（安藏リーダー）男性の不妊治療の専門家の先生は、産科の先生か泌尿器科の先生か。
- ・（石川氏）基本的には泌尿器科のドクター。泌尿器科の中でも、生殖医療、不妊治療というのは、数が多いわけではない。ヨーロッパのように、男性も女性も生殖医療医が診る、オリジンが婦人科であっても男性不妊にも精通するという状況もあっていいと思う。
- ・（安藏リーダー）不妊治療は女性が婦人科に行く。泌尿器科に行くのは何かアドバイスがあったり、モチベーションがあったりするのかな。
- ・（石川氏）婦人科に行くというのが日本独自の考え方。不妊治療というのは男女ともできるというのが基本で、その認識を婦人科医にも持っていただいて、婦人科に男性不妊の専門医が最初は出張で行き、どんどんふやしていくというような施策を生殖医学会でも考えなければいけない。生殖医学会でも男性不妊の治療・診療ができるリストを公開しているので、医療者自身も婦人科と泌尿器科と連携を組んでやるのが大事だ。
- ・（井上委員）女性のほうの卵子の老化というのはよく知られるようになってきたと思うが、一方で男は幾つになっても子どもが作れると思っている人が多いが、男性不妊の加齢による原因はどれぐらいあるのか。
- ・（石川氏）実際に精液所見は悪くなってくるし、精子の頭部にあるDNAの損傷率がふえるということはわかっている。ただ女性のように圧倒的にではない。ただDNAが損傷することによって、生まれてくる子供に対する影響も情報提供はしないとけないと思う。

#### （2）助産師の立場から見た情報提供について

##### 高橋氏のプレゼンテーション

資料2に基づき、「助産師（&看護師）の立場から見た情報提供」として助産師・看

護師の役割から、助産師・保健師・看護師・看護学生による健康教育の実例、少子化危機突破にむけて、助産師・看護職からの提案についてプレゼンテーションが行われた。

#### 高橋氏のプレゼンテーションに関する質疑

- ・（宋委員）若年妊娠をした少女たちの背景には、貧困や機能不全家族で育っていたり、低学力などがある。よく命を大切にすることをもっと学校で教えなければと言われるが、そういうもので命って大切だなと思える子というのは、もともと命を大切にしている、自分の身体を大事にするような行動をとれている子ではないかと思う。学校教育からこぼれてしまう子たちに、手を差し伸べないといけない。学校に来た子たちに教育するのも大事だが、子供を産んだ両親を支援して、余裕を持って子育てをすることから始めるのがいいのではないか。
- ・（高橋氏）中絶を繰り返すことは、生育歴とか家庭の背景が強くあると思う。一番身近に相談できる相手は養護教諭なので、養護教諭の教育も念頭に置いている。
- ・（齊藤座長）先生がやられていることが日本全国で普遍的に行われるためには、行政に何をお願いすれば、この理想的なことが推進できると考えているか。
- ・（高橋氏）1つは、看護系大学の力を使ってモデルとしてやっていこうというのは可能だと思うので、その場合、受入側の高校との連携のための文科省からのバックアップ。もう1つは、文科省からのこういう教育を推進するというプランと、予算のバックアップ。まずはやる側の教育も必要。
- ・（齊藤座長）例えば潜在看護師を活用するためには、どのような行政的なアプローチを出して、組み込んでいけばいいか。
- ・（高橋氏）潜在ナースについては、文科省の学び直しの一環で研修をやったが、実際には働いている現職のナースと養護教諭が参加をするという現状があって、どのようにボトムアップの力を凝集していくかというのは課題。
- ・（安藏リーダー）文科省の中教審の答申で、大学のほうだが、サービスラーニングを推進というのがある。この話はリプロに関してのサービスラーニングの実践になると思うので、うまく連携できれば。これだけ看護大学があるので、情報提供に関してこのタスクフォースでも考えていかなければならない。思春期から閉経期までの女性のライフコースの中で受ける教育というのは、学校教育で受けるところと、厚生労働行政でやっていかなければいけない情報提供に分かれてくるように思う。ヘルスプロモーションプログラムをつくっていくと、両方のリンクができるように感じた。
- ・（後藤委員）中高生の教育の中でというのに関心を持っているが、それと同時に、学校教育と社会人になってからの切れ目のないアプローチを考えられたらいいのではないかと思う。例えば、毎年職場で健康診断を受けているが、男女全く同じ内容になっている。本当は大事なことを発見したりとか考えたりするチャンスを十分生かし切れていないのではないかと思う。

- ・（高橋氏）ウィメンズヘルスという観点からは、企業健診の中でぜひ入っていくことが必要だと思う。

### （3）情報提供における課題

#### 宋美玄委員のプレゼンテーション

資料3に基づき、「情報提供の課題」として、生殖に関する情報の現状、情報の流通が偏る背景、情報を正確化させるためになどについてプレゼンテーションが行われた。

#### 宋美玄委員のプレゼンテーションに関する質疑

- ・（井上委員）商業媒体をやっていると、読者が興味を持ちやすいキャッチフレーズを使ったりということで、内容自体は事実を書いているが、どこをピックアップしてタイトルにするかとか、簡略化してしまったりということはよくある。中を読んでもらえば、正しいことが載っているというようなつくりをしたいとは思っている。医師の間でも見解が分かれることなどについては、どういうふうにか考えるか。商業媒体のつくり手に向けたセミナーはやっていただけるといいと思う。妊娠・出産に関する医学の情報のセミナーというのは余りなかったと思う。
- ・（宋委員）医者同士で意見が分かれるというのはよくあること。ただ、明らかに科学的、解剖学的、生理学的にありえないことに関しては、専門家と名乗る人が言っても信用できない。編集者の方の基礎知識とリテラシーをアップしていただくというのも、1つ重要ではないか。セミナーに関しては、実現させていきたい。
- ・（齊藤座長）学会、自治体、厚生労働省、内閣府を含めて正確な情報を出していくことがすごく大切だと思う。国民の皆さんは学会、行政が出すものは信じられると思う。最終的にはここにたどり着けばいいんだというものを発信していただければ、生殖に関しても正確な情報が皆さんに伝わっていくのではないか。
- ・（安藏リーダー）タスクフォースの情報提供チームがある意義というのは、正しい知識をどういうところから得ることができるかとか、情報源としての役割というのも重要なのではないか。

### （4）意見交換

#### 【石川氏】

- ・その時点その時点でのエビデンスのあるものに関してきっちりとした出所、そして妊娠率などの情報を提供することが非常に大事。

#### 【安藏リーダー】

- ・石川先生の資料の中で、年別の治療周期数と年別の出生児数のところのFETとICSI

とIVFの違いは何か。

【石川氏】

- ・ IVFというのは体外受精。ICSIというのが顕微授精。FETというのは、一旦できた胚を凍結し、融解胚移植。女性の卵巣が腫れたり、子宮環境が悪かったりということで、一旦凍結をしておいて胚移植する周期のこと。

【安藏リーダー】

- ・ 不妊治療は産婦人科に行く。男性の場合は泌尿器科に行かなければいけない。このリンクを国全体の医療システムとするには、学会とか厚労省とかがどうしたらいいか。

【齊藤座長】

- ・ 情報提供に関しても学会というのは主導的な立場で、公的で正しいものを出していければいい。

【吉村内閣官房参与】

- ・ 情報提供のための媒体となると、クオリティとリテラシーだと思う。商業誌というのは例えば記者会見をやられたときにも来ない。どんなに新聞でいろいろなことを言っても、商業媒体のほうが圧倒的に訴える力はある。若い女性の方がお読みになる頻度が高いので、大事だと思うので、クオリティとリテラシーをどのようにして担保していくか。女性の生涯を考えていくということになるので、学会みたいなところとタイアップしていくことが一番いいのではないか。

【高橋氏】

- ・ 縦割の医療とかある中で、幾つかの大学の中に、例えばリプロダクティブセンターみたいなものを設置するのはどうか。そこは臨床と教育と研究とリーダーの育成と一般市民への啓発部門を持つというワンストップショッピング型のモデルをつくって、縦割からリプロダクティブということを1つの理念として、あらゆるところにアプローチをしていくというのはどうか。

【石川氏】

- ・ がん治療と違って、生殖医療は、採卵周期数、手術数を、民間がほとんど占めている。民間で症例はたくさんあるが、それが大学との研究にうまくリンクしていない。大学との共同研究であるとか、産学共同であるとかのタイアップが進めばいいが、今、日本の生殖医療の現状では難しい部分があるのかなと思う。

( 5 ) その他

【事務局より】

次回は1月に全体会議の開催を予定。